

編集後記

年の瀬も押し迫って参りました。世相を表す「今年の漢字」は「輪」に決まった様です。まだまだ先と思っていた 2020 年の東京五輪がいつの間にか来てしまった・・・という様な事態にならぬよう、研究に節目をつけて臨みたいと思います。

本号では、極限コヒーレント光科学研究センターより小林研から受賞報告、板谷研から研究室だよりの記事が届きました。客員所員の先生方の体験記が 3 件、夏に開催された強相関電子系の国際会議 SCES2013 の榊原先生からのご報告、金道先生の物性研短期研究会「極限強磁場科学 - 場、物質、プローブのリンクから融合へ」のご報告と続きます。今年度後期は 6 件の短期研究会が企画され、この強磁場の研究会がその皮切りです。このような活発な議論の機会を多数持つことのできる物性研の恵まれた環境に感謝しつつ、今後益々、物性研究全体の発展に寄与できる活動を意識しなければならないと感じます。

松田 康弘